

尼崎市立幼稚園の現状等について

第1回尼崎市立幼稚園のあり方検討会資料

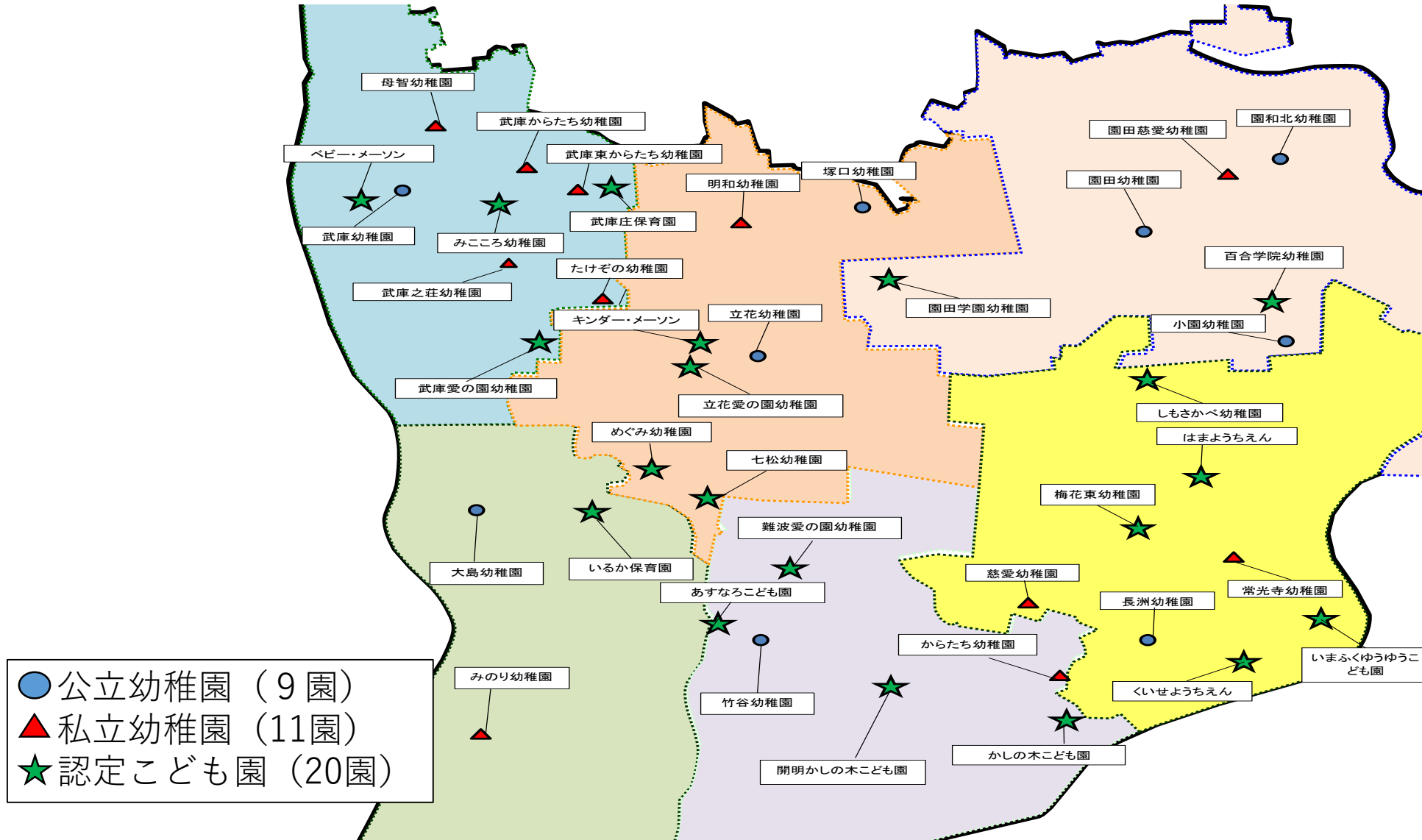
1 尼崎市 市立・私立幼稚園設置の歴史

戦後、人口急増に対応するため、幼稚園教育は私立幼稚園を中心に展開

	戦前	S 22	S 23		S 25	S 28	S 29			S 40	S 42											
市立	博愛・塚口・立花	武庫	園田・園和・上坂部	長洲	大庄	梅園・竹谷・西・大島				成徳	園和北	武庫北	富松	小園・武庫南	立花東・武庫庄							
私立	難波・潮江	水堂	ミード	カピラ	難波愛の園・慈愛	八幡・くいせ・園田学園	みこころ・常性	常光寺・七松・しもさかべ	百合学院・みのり	法輪・神崎製紙付属	東光・健康・大神宮	はま・からたち・まこと	明和・立花愛の園・尾浜	梅花・恵光・めぐみ	武庫之荘	立花こひつじ	武庫からたち	母智	武庫愛の園	梅花東	たけぞの・武庫東からたち	園田慈愛

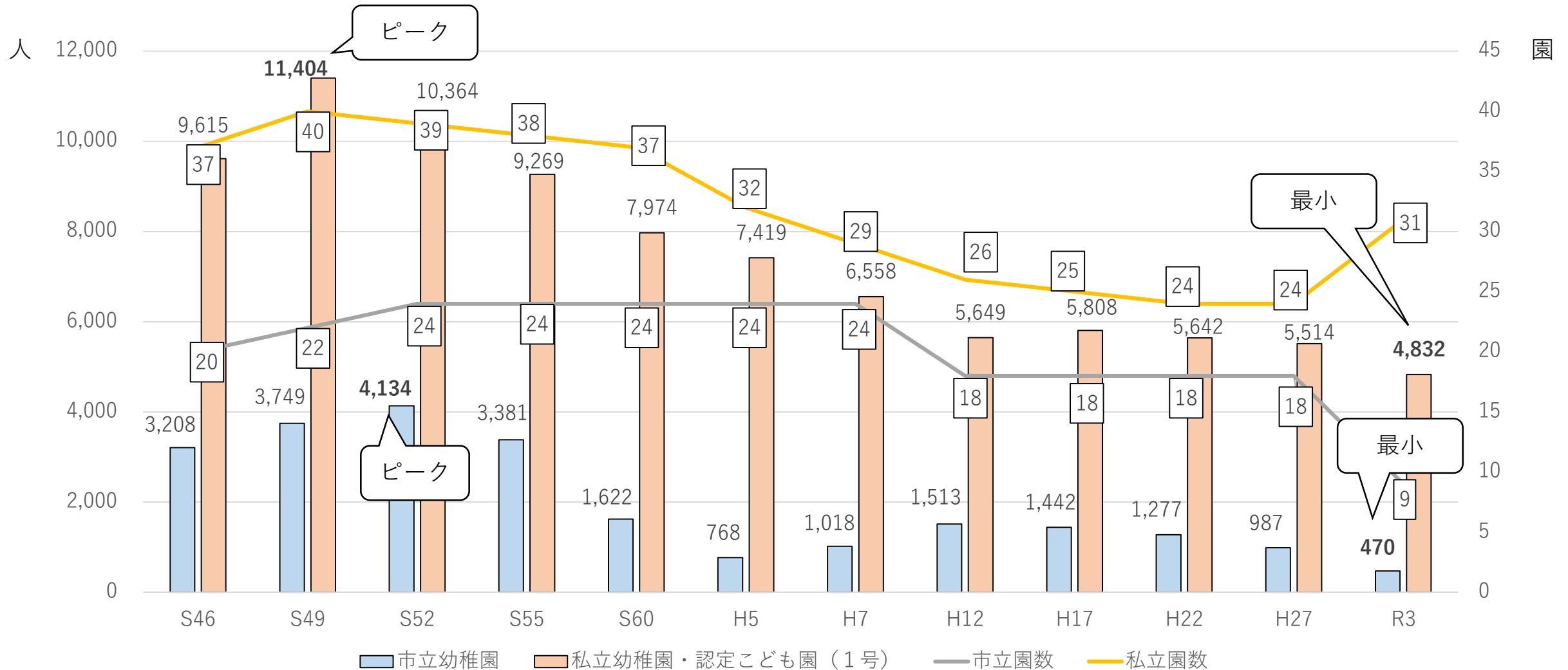
2 尼崎市内の幼稚園・認定こども園位置図（令和3年度）

市内の施設は北西、南東に比較的多く分布



3 尼崎市 幼稚園・認定こども園の園数と園児数（1号）の推移

市内の幼稚園児の約9割は私立の幼稚園・認定こども園（1号）、約1割は市立幼稚園に就園



各年5月1日現在

4 尼崎市立幼稚園 施設状況

園名	住所	創立年	現園舎 建築年月	園舎等 ㎡	園地 ㎡	運動場 ㎡	保育 室数	遊戯 室数	隣接小学校
塚口	塚口町2丁目13-9	昭和2年	昭和47年4月	661	1,712	618	6	1	
立花	栗山町2丁目26-2	昭和9年	昭和56年12月	935	2,873	1,618	7	1	立花小
武庫	武庫元町2丁目25-9	昭和22年	昭和57年11月	924	1,999	846	6	1	武庫小
園田	口田中1丁目2-17	昭和23年	昭和46年8月	632	1,508	617	6	1	
長洲	長洲東通3丁目7-48	昭和24年	昭和46年8月	581	1,404	824	4	1	長洲小
竹谷	北竹谷2丁目36	昭和28年	昭和49年8月	603	1,118	614	4	1	竹谷小
大島	稲葉荘1丁目9-25	昭和28年	昭和42年8月	595	955	470	4	1	
園和北	東園田町3丁目76-1	昭和42年	昭和58年12月 (平成31年3月増築)	706	1,925	693	5	1	
小園	小中島3丁目17-3	昭和45年	昭和45年6月	595	1,133	754	4	1	

上記施設はいずれも、耐震改修等により、耐震性能の確保済み

5 尼崎市立幼稚園 園児数（令和3年度）

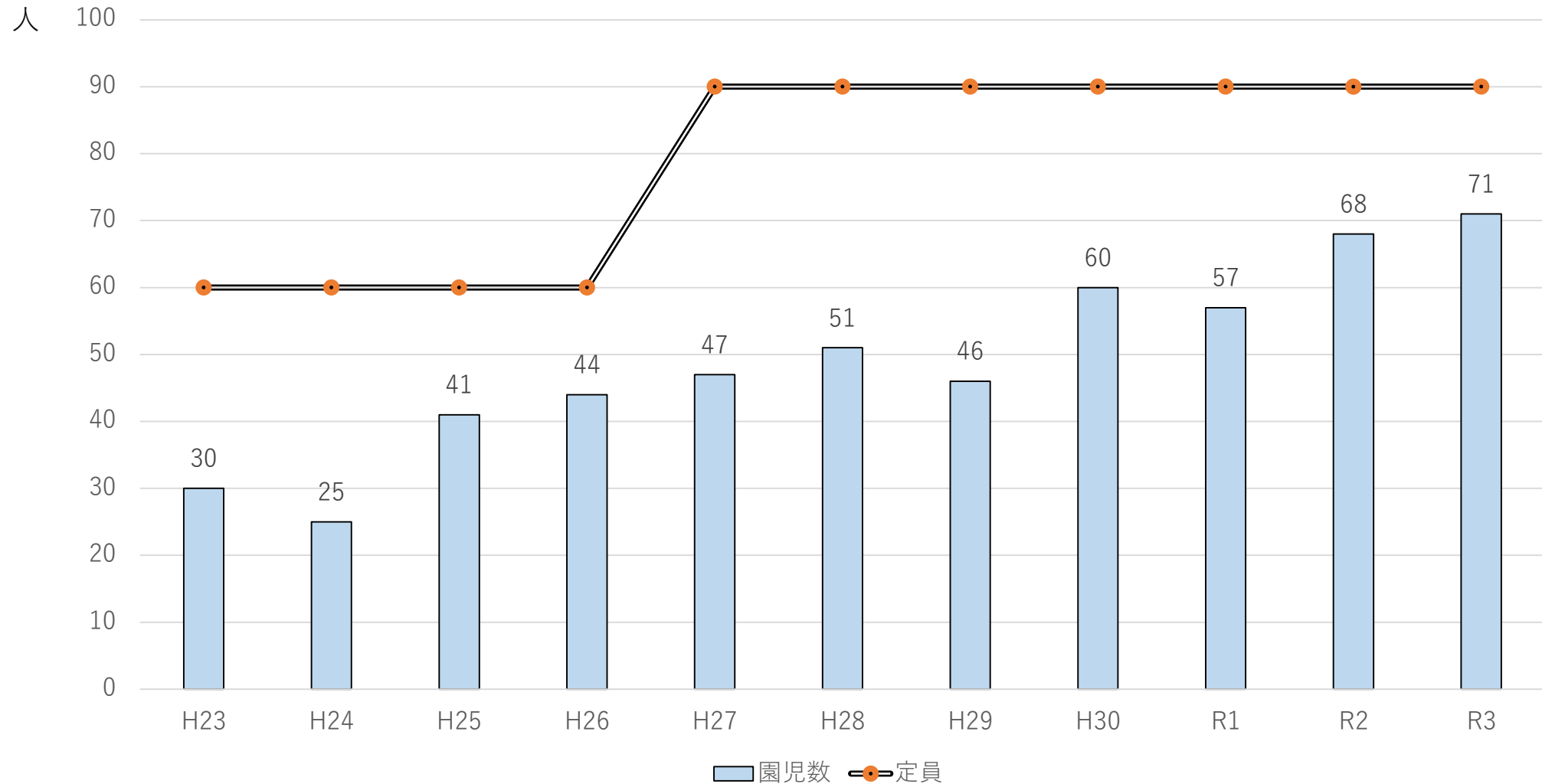
定員に対する園児の割合は通常学級は約3割（4歳児31.1% 5歳児33.4%）
一方、特設学級は約8割（78.9%）

	地区	園名	4歳児（通常）			5歳児（通常）			特設学級					合計		
			定員	園児数	充足率	定員	園児数	充足率	定員	4歳児	5歳児	園児数	充足率	定員	園児数	充足率
1	中央	竹谷	60	15	25.0%	70	22	31.4%	10	3	5	8	80.0%	140	45	32.1%
2	小田	長洲	60	12	20.0%	70	11	15.7%	10	3	3	6	60.0%	140	29	20.7%
3	大庄	大島	60	10	16.7%	70	16	22.9%	10	5	5	10	100.0%	140	36	25.7%
4	立花	立花	60	32	53.3%	70	32	45.7%	10	5	4	9	90.0%	140	73	52.1%
5		塚口	60	21	35.0%	70	24	34.3%	10	5	5	10	100.0%	140	55	39.3%
6	武庫	武庫	90	26	28.9%	105	42	40.0%	10	5	5	10	100.0%	205	78	38.0%
7	園田	園田	60	20	33.3%	70	26	37.1%	10	2	2	4	40.0%	140	50	35.7%
8		園和北	60	21	35.0%	70	22	31.4%	10	4	2	6	60.0%	140	49	35.0%
9		小園	60	20	33.3%	70	27	38.6%	10	3	5	8	80.0%	140	55	39.3%
合計			570	177	31.1%	665	222	33.4%	90	35	36	71	78.9%	1325	470	35.5%

5月1日現在

6 尼崎市立幼稚園 特設学級園児数の推移

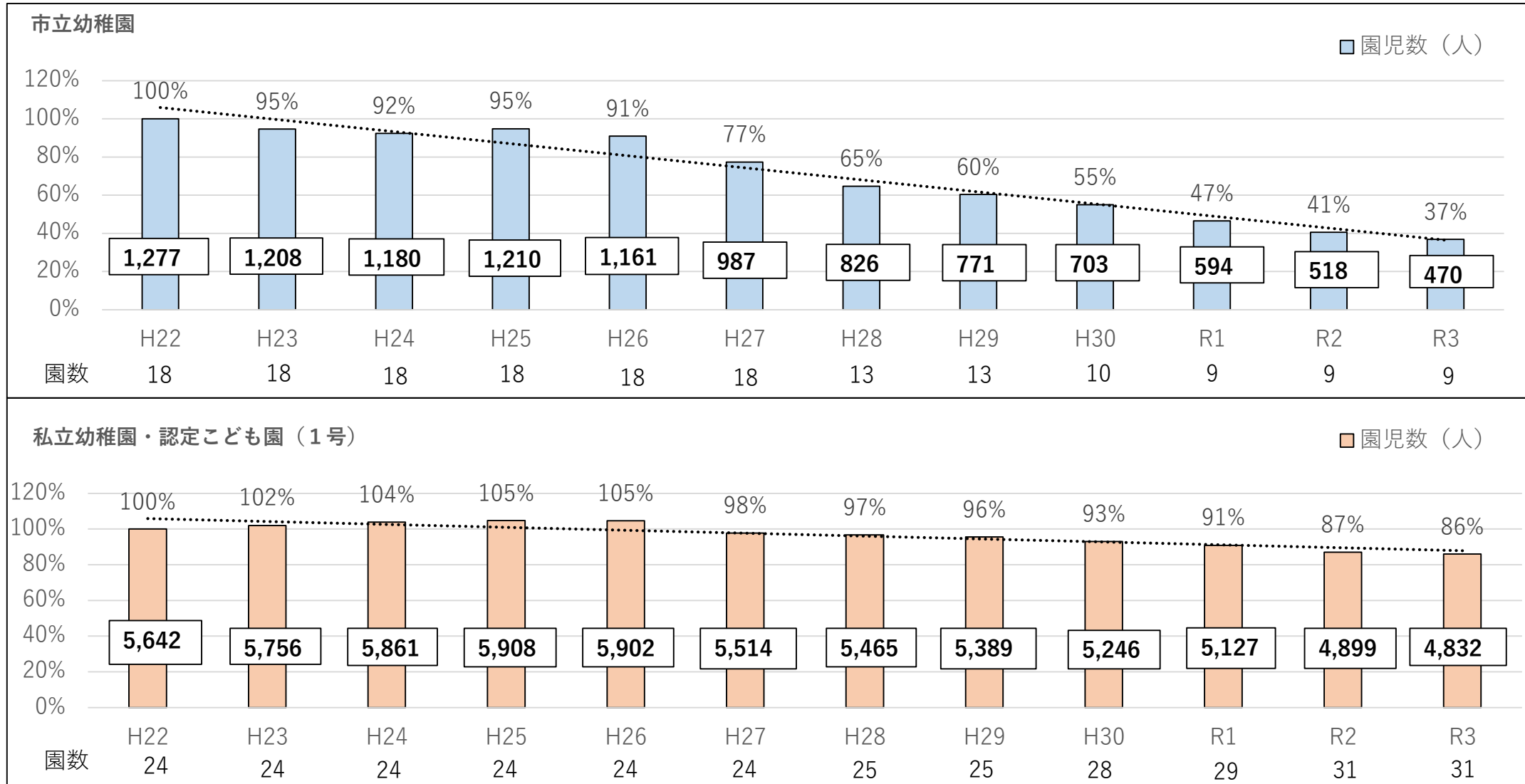
近年、特設学級の入園児数は増加傾向 (H23: 50% ⇒ R3: 79%)



各年5月1日現在

7 尼崎市 幼稚園・認定こども園（1号） 園児数の推移

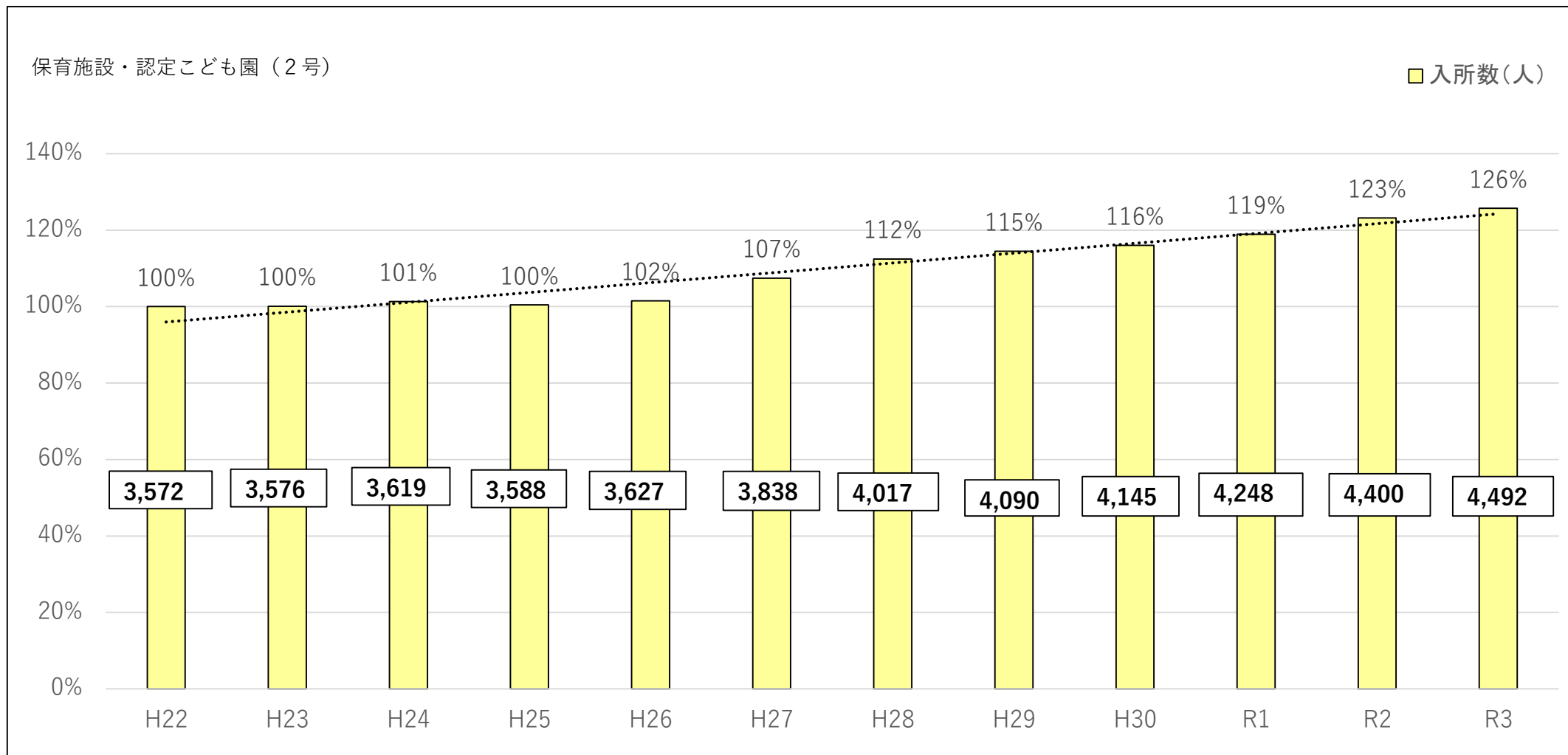
平成22年度から、市立幼稚園は約6割、私立幼稚園・認定こども園（1号）は約1割減少



各年5月1日現在

8 尼崎市 保育施設・認定こども園（2号）入所数の推移

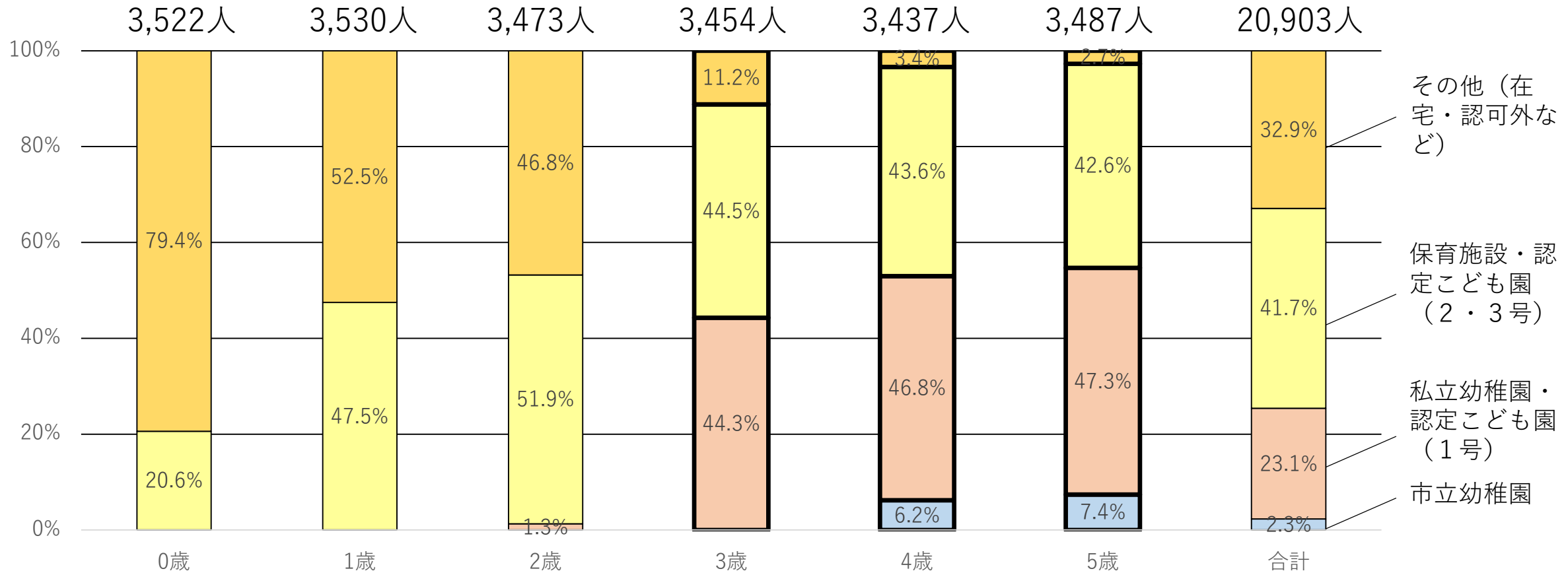
平成22年度から、保育施設・認定こども園（2号）の利用者は約3割増加



各年5月1日現在
0歳～2歳の入所数は除く

9 尼崎市内の就学前児童の就園状況（令和3年度）

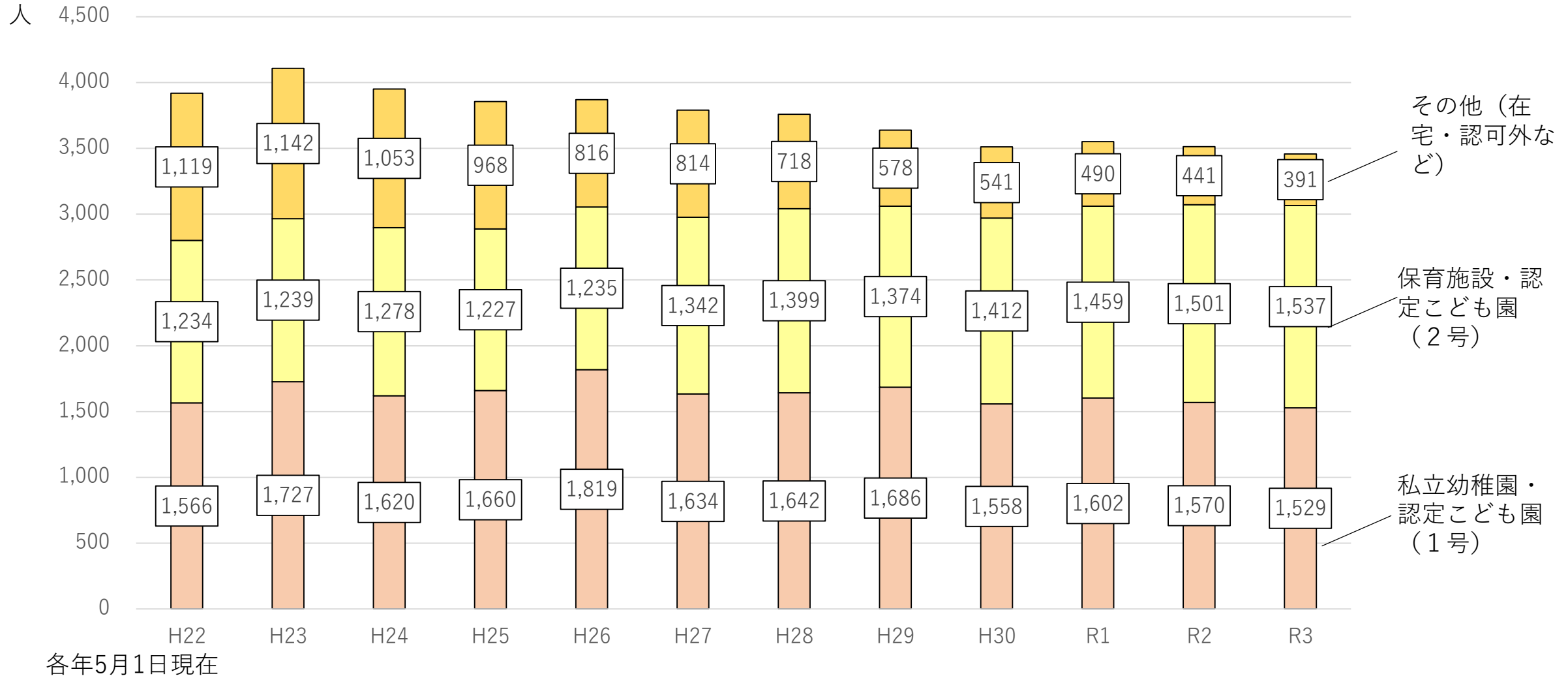
就学前児童のうち、1 / 4 は幼稚園・認定こども園（1号）、
 全体の4割が保育施設・認定こども園（2・3号）、3割が在宅や認可外など



※就学前児童数は5月1日現在住民基本台帳、就園人数は5月1日現在
 ※私立幼稚園・認定こども園（1号）の満3歳児は2歳に計上

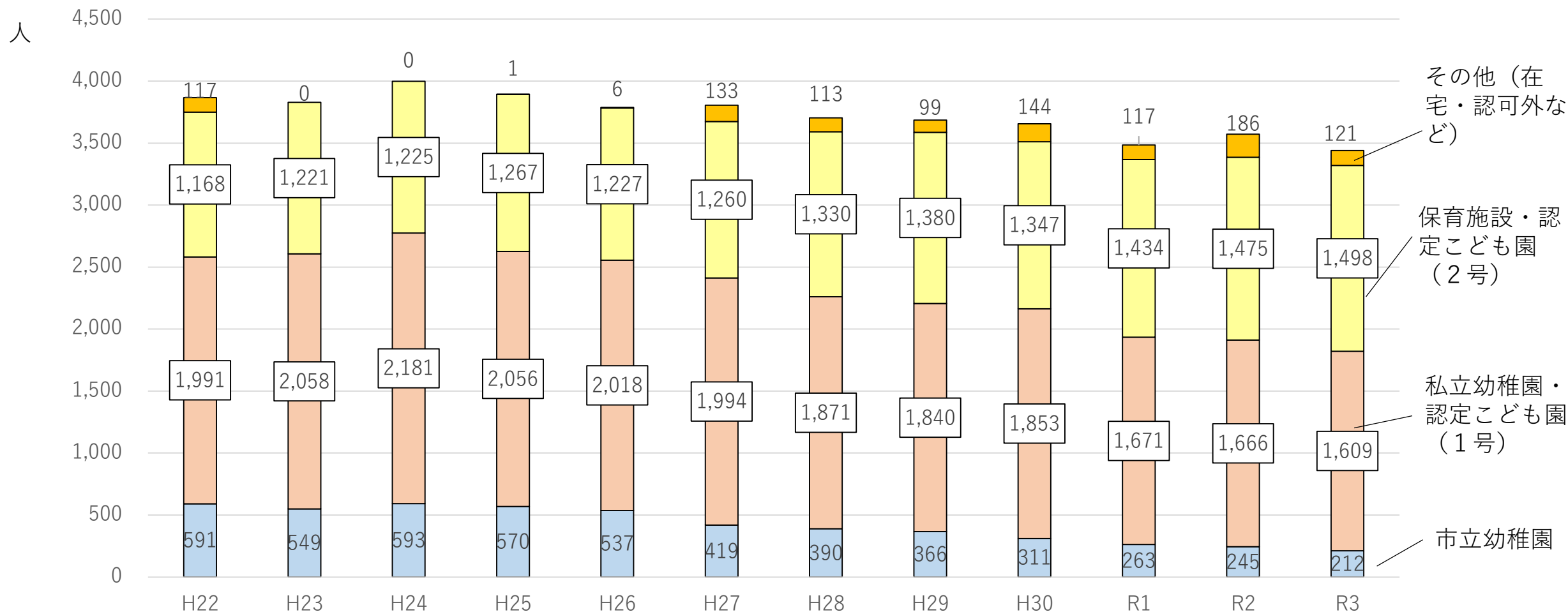
10 尼崎市 3歳児の就園等状況

10年間で、私立幼稚園・認定こども園（1号）はほぼ横ばい
在宅などの施設を利用しない幼児数が減少し、保育施設・認定こども園（2号）の利用者は約2割増加



11 尼崎市 4歳児の就園等状況

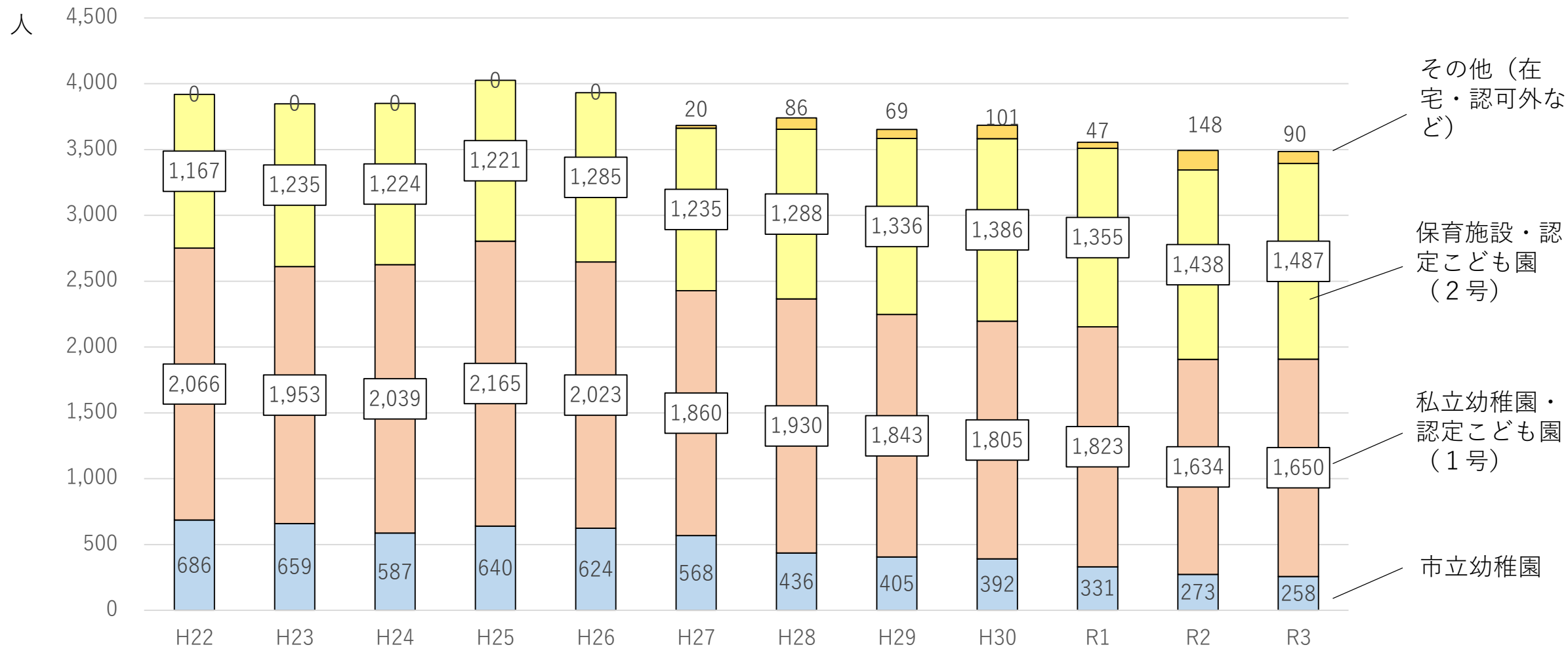
10年間で、市立幼稚園の利用者は約6割、私立幼稚園・認定こども園（1号）の利用者は約2割減少
一方、保育施設・認定こども園（2号）の利用者は約3割増加



各年5月1日現在

12 尼崎市 5歳児の就園等状況

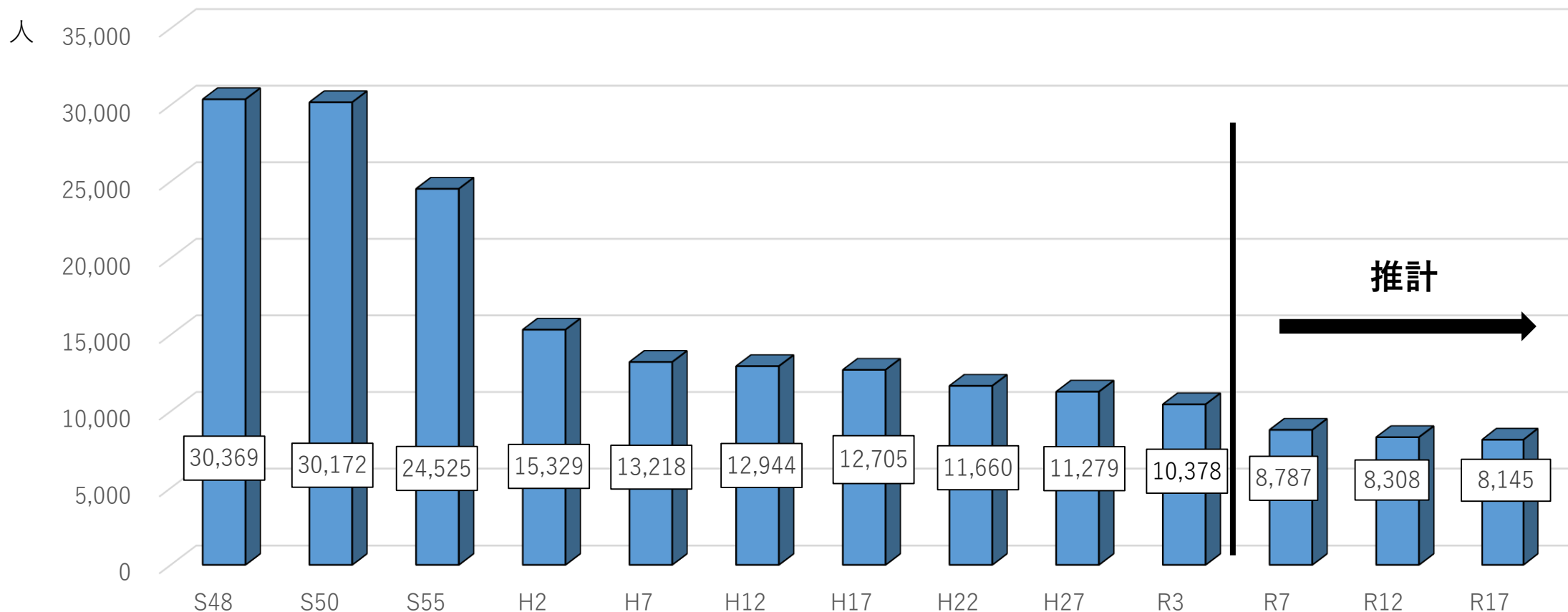
10年間で、市立幼稚園の利用者は約6割、私立幼稚園・認定こども園（1号）の利用者は約2割減少
一方、保育施設・認定こども園（2号）の利用者は約3割増加



各年5月1日現在

13 尼崎市 3～5歳の幼児数の推移と将来の推計

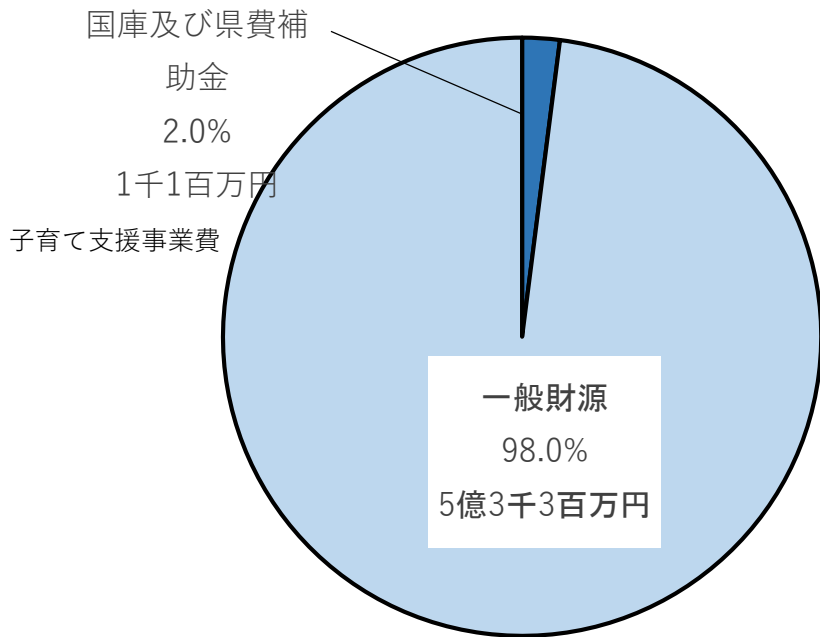
昭和48年度をピークに約1/3に減少。令和7年度以降は1万人を下回る推計



昭和55年度までは4月1日現在。平成2～7年度までは3月31日現在の住民基本台帳人口による。
平成12年～令和3年度までは5月1日現在の住民基本台帳人口及び外国籍人口による。
令和7年度以降は「兵庫県将来推計人口」を基に算出

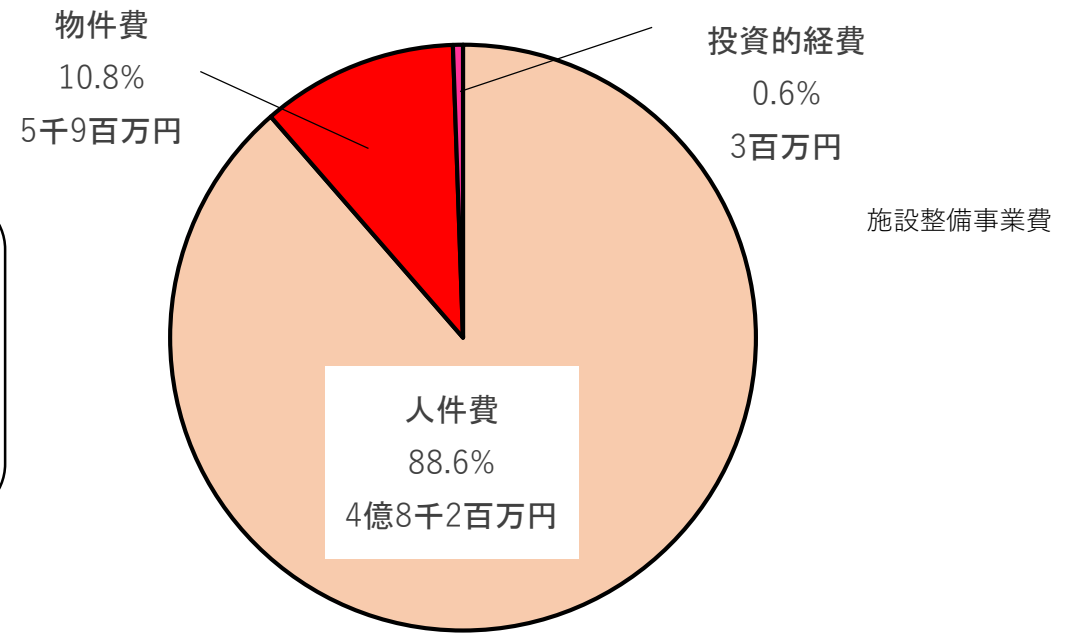
14 尼崎市立幼稚園の運営経費（令和3年度予算ベース）

- ・ 令和3年度の市立幼稚園の運営に要する経費総額は約5億4千万円
- ・ 歳入は国庫・県費補助金が約1千万円で、運営経費の殆どは一般財源
- ・ 歳出は人件費が約4億8千2百万円、物件費が約5千9百万円、投資的経費が約3百万円
- ・ 1園あたりの運営経費は約6千万円（全9園）
- ・ 1人あたりの公費負担額は約115万円
（全在園児数470人（令和3年5月1日現在））



歳入

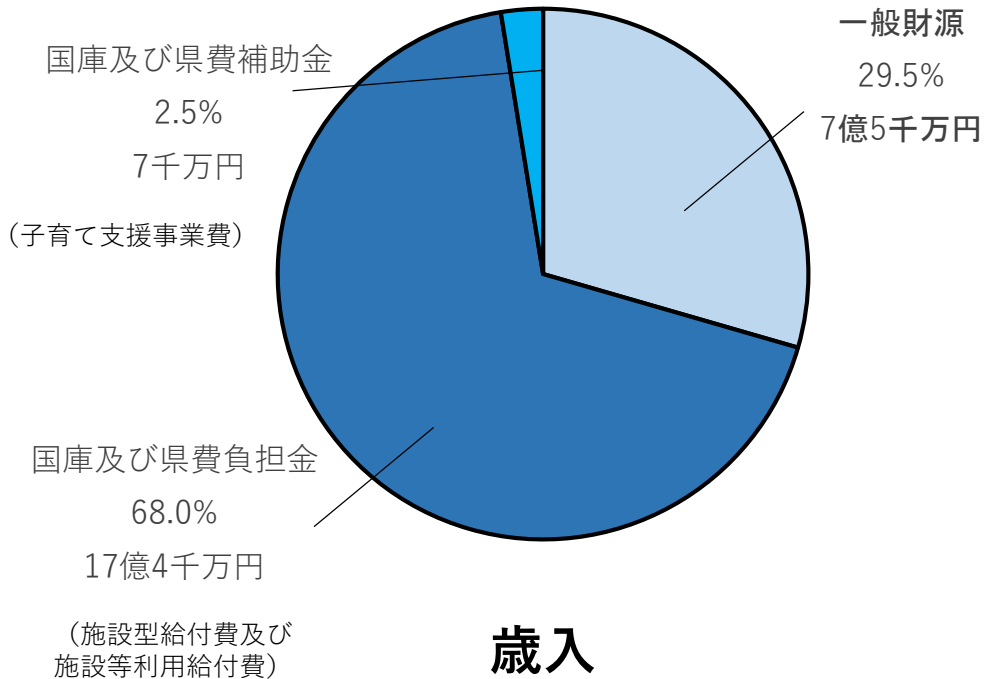
令和3年度
予算総額
5億4千万円



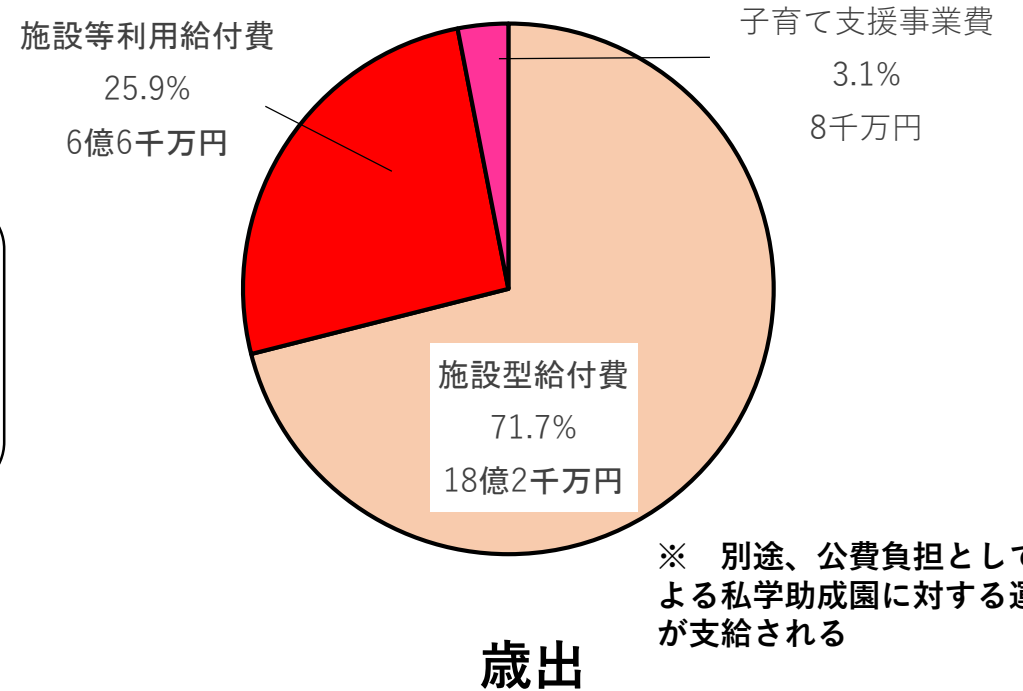
歳出

15 尼崎市私立幼稚園・認定こども園（1号）の公費負担額 （令和3年度予算ベース）

- ・ 私立幼稚園・認定こども園（1号）への市財政負担額は令和3年度予算ベースで約25億6千万円
- ・ 歳入は国庫・県費補助で約18億1千万円で、一般財源が約7億5千万円
- ・ 歳出は施設型給付費が約18億2千万円、施設等利用給付費が約6億6千万円、子育て支援事業費が約8千万円
- ・ 1人あたりの公費負担額は約53万円
（園児数4,832人（令和3年5月1日現在））



令和3年度
予算総額
25億6千万円



16 尼崎市 幼稚園・認定こども園の公費負担額（令和3年度予算ベース）

単位：千円

区分	市立幼稚園	私立幼稚園・認定こども園（1号）
歳出	運営費（人件費含む）541,000 投資的経費 4,000 544,000	施設型給付費（新制度園）1,820,000 施設等利用給付費（私学助成園）660,000 子育て支援事業費（新制度園）80,000 2,560,000
歳入	国庫・県費補助金 11,000 （子育て支援事業） 11,000	国庫・県費負担金（施設型給付費）1,245,000 国庫・県費負担金（施設等利用給付費）495,000 国庫・県費補助金（子育て支援事業）70,000 1,810,000
園児数	470人	4,832人
一人あたりの公費負担	約115万円	約53万円

※ 別途、財政負担として、県による私学助成園
に対する運営経費が支給される



17 尼崎市立幼稚園教育振興プログラムについて

教育内容の充実と効果・効率的な運営を目指すため、
平成24年8月に「市立幼稚園教育振興プログラム」を策定

◆ 複数学級を編成し、効率的な運営や効果的な取組みを行うための市立幼稚園の再編 (18園⇒9園)

- ・平成27年度末で、5園廃止
(博愛・梅園・富松・武庫南・武庫庄)
- ・平成29年度末で、3園廃止
(大庄・立花東・武庫北)
- ・平成30年度末で、1園廃止
(園和)

◆ 市立幼稚園教育の充実に向けた6つの柱

- ・後伸びする力をさらに育むための複数学級の編成
- ・幼稚園と小学校の滑らかな接続に向けた教員間の連携の推進
- ・特設学級の充実
- ・発達に関する専門機能の強化
- ・家庭教育の支援
- ・幼児教育制度の研究